

# 新年のごあいさつ



対馬市長

財部 能成



新年明けましておめでと  
うございます。

皆様におかれましては、  
ご健勝にて穏やかな新春を  
お迎えのこととお喜び申し  
上げます。また、皆様には  
日ごろから市政に対し深い  
ご理解とご支援、ご協力を  
賜り心から厚く御礼申し上  
げます。

さて昨年は、私達日本人  
にとって、また人類にとつ  
て、千年に一度の出来事と  
も言われた「東日本大震災」  
と、それに附随して発生し  
た「原発事故」という悲劇  
的な事柄が重なり合う、歴  
史的にも忘れる事の出来な  
い年でございました。  
被災地から遠く離れた場  
所であるこの対馬において、  
『人間はこの逆境で立ち直

ることができているのか？ただ  
茫然自失の感に追い込まれ  
るだけの人類なのか？日本  
人なのか？』と私自身、思  
いをめぐらせておりました。  
しかし豈<sup>あいか</sup>図らんや、極限  
状態に追い込まれているは  
ずの被災地の人々が、寡黙  
ななかにも明日への希望を  
抱いて瓦礫を処理するあの  
姿は、不景気の嵐が吹きす  
さぶ地方に住む私たちだけ  
ではなく日本中に感動を与  
え、また深奥にある何かを  
覚醒させました。

面と、日本人が最も日本人  
らしく振る舞っている被災  
者の姿は、私達のような凡  
庸な生活に浸っている人間  
さえも目覚めさせたような  
気がします。  
その様な中、11月にプー  
タン国王夫妻が来日されま  
した。日本中に爽やかな風  
を残していきました。が、  
なにゆえこのように爽やか  
だったのだろうかと改めて  
考えると、国王夫妻の人物  
のみならず、父君である前  
国王が提唱された『国民総  
幸福量（GNH）』という  
考えに基づき政治を執り行  
っていらっしやる事が要因  
かなと感じざるを得なかつ  
たところです。  
『国民総幸福量』とは、  
国民の幸福を政治の目的と

し、政策判断を現実に活か  
すべく、幸福の量を具体的  
な数値・指標として定めた  
ものだそうです。

「幸福とは何なのか？」

このことは人類が求める  
究極の命題なのかもしれま  
せん。実践的な幸福論を展  
開したフランス人哲学者  
アランは、著書『幸福論』  
の中で「幸福とは、報酬を  
求めなかった人々のところ  
へくる報酬なのだ」と説い  
ています。「求めない崇高  
な生き方に後付けで、無意  
識の内に褒美のように寄り  
添ってくるもの、それが幸  
福である」と評しているの  
だと考えます。また、喜び  
と満足について次のように  
も記しています。

「もし喜びを探しにいく  
なら、まず、なによりも喜  
びを蓄えることだ。成功し  
たから満足しているのでは  
ない。満足していたからこ  
そ成功したのだ」と。そし  
て、「人間は、意欲し創造  
することによってのみ幸福  
である」とも記されていま  
す。私はこれを、「精神的

なもの相対的なものでは  
なく自分自身の心の持ちよ  
うでいかようにも捉えられ  
る」と意味しているのかな  
と解釈しました。

混沌とした昨今の世界情  
勢を考える時、価値観の多  
様化が著しい現代社会にお  
いては一つの「解」に収れ  
んしていく事はありえなく  
なったのではと考えます。  
しかし、普遍的な部分で「幸  
福」については、無意識の  
うちにおける能動がもたら  
すものであるのだと語って  
いるのでしよう。

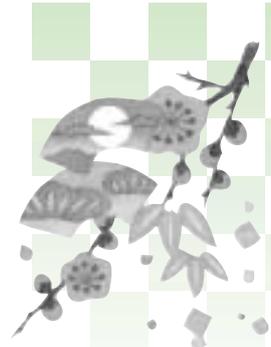
無欲かつ無意識な行動を  
起こす時が今、到来してい  
ると考えます。

動き出そうではありませ  
んか！

何も見えないが素晴らし  
い未来に向かって！

本年が皆様にとりまして  
素晴らしい一年となります  
ようご祈念申し上げます。

# 新年のごあいさつ



対馬市議会議長

作元義文



市民の皆様、あけましておめでとうございます。

希望に満ちた輝かしい平成24年の新春を、ご家族おそろいでお迎えのことと心からお喜び申し上げます。年頭にあたり市議会を代表して、謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

市民の皆様には、日ごろから市政及び議会活動に対して温かいご理解と絶大なご協力を賜り誠にありがとうございます。

ご承知のとおり昨年は何と言っても、3月11日に発生いたしました、日本の歴史上類を見ない大惨事、「東日本大震災・福島第一原発事故」でありました。

あの想定外と言われます出来事は、日本国民の脳裏

に鮮明に残っています。一消されることはないでしょう。国民一人ひとりの強い「絆」により、1日も早い震災復興に国民の力を結集しなければならぬと考えます。

昨年は、暗いニュースばかりの1年でありましたが、唯一心から喜べた出来事と言えば、「なでしこジャパン世界一」がありました。震災後の冷え切った日本国民の心に灯火と勇気を与えてくれた出来事でありました。

対馬市誕生から今年で9年目を迎えますが、相変わらず厳しい財政状況が続く公共工事の大幅な減少や基幹産業である水産業の低迷などにより、島の経済は冷え切った状態が続く、若年

層の島外流出等に歯止めをかけることができず、ますます過疎化、高齢化が進行しています。

このような世情でありましたが、昨年を一文字で表した「絆」という言葉を市民皆さんが心に抱き、強い「絆」で、活力のある島「対馬づくり」を目指したいと考えます。私たちは市民・行政・議会が一体となり、強い絆により「国境・自然・歴史と文化」、いわゆる対馬固有の財産、対馬らしさを生かして、ふるさと対馬の再生と発展を目指す必要があると決意を新たにしているところであります。

議会と行政は互いに車の両輪のごとく協力し合い、英知を結集して対馬の新しい

黎明を迎えるため努力を続ける所存であります。

市議会の1年間を顧みますと、議員発議で、TPP参加交渉の問題について、慎重に検討協議すべきとのこと、「食糧自給率を高めるために、TPPに参加しないことを求める意見書」を採択。離島地域病院の看護師等医療従事者不足の解消を図るために、「医療従事者養成経費（医療技術修学資金）の拡充を求める意見書」を採択。また委員会発議で、現行の離島振興法の平成25年3月末の期限切れを踏まえて、「新たな離島振興法の制定」及び「防人の島新法の制定」を求める意見書を採択。大中まき網船団の横暴とも言える対馬沿岸での乱獲操業に対し、対馬の漁場と対馬漁民の生活を守るために、「大中まき網の操業規制等を求める意見書」を採択。それぞれ県・国等の関係機関へ提出いたしました。対馬市もこの周辺海域を守るために海洋保護区の設定を強く県・国に求めていくことを決めております。対馬の漁

民・島民が孫子末代まで豊かなままに残していける様更なる努力を続けなければと思っております。また、新病院の建設については、既に議会として承認しているところであります。色々な問題が山積しておりますが、島の活性化に向かって対策を講じているところであります。

また総務文教・厚生・産業建設の3常任委員会は各地域の実情を把握すべく所管事務調査を精力的に実施するとともに、国境離島活性化対策・国県道路整備促進の2特別委員会を設置し、それぞれの専任重要課題に積極的に取り組んでおります。

私たちが市議会は、市民皆様のご期待に応えるよう最大の努力を傾注する所存でございますので、ご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

終わりに皆様のご健勝とご繁栄を心よりお祈りいたしまして、年頭のごあいさつといたします。